

平成22年度 須坂東高校 学校自己評価 中間評価

学校教育目標	中・長期的目標		
1. 真理と学問を愛し、豊かな知性に基づいて正義と道徳とを重んずる精神を育成する	1 基礎学力の定着を重視した進学校 2 安心して学校生活を送れる環境 3 クラブ・生徒会活動で自己を生かせる学校 4 地域に開かれた学校		
	本年度の重点目標	評価の観点	中間評価
2. 清純高潔な品性と豊かな趣味とを育成する	0 生活指導・学習指導・進路指導を充実させる土台として、教師と生徒との対話・面談を重視する。	a 保護者懇談会や考査ルーティーンの一環としての面談を充実させる。 b 必要に応じて面談の機会を設定し、生徒個々に適切な指導を行う。	保護者懇談会は三者面談形式で実施し、意思疎通や情報の伝達と収集の場として有効であった。考査ルーティーンに関連した面談については時間が取れず、対象は特定の生徒に限られてしまった。
	1-1 日々の授業を充実させる。	a 教師自らが、授業開始時刻と終了時刻を厳守する。 b 生徒の集中力を養成する工夫を実践する。 c 授業公開や教科内での研究を活発にして、進度や授業内容の充実を図る。 d 生徒が家庭学習を習慣化できるよう指導をする。	a 授業時間は概ね厳守されている。 b 教員個々に工夫して授業に取り組んでいるが、学校全体で取り組めるものがないか考えてみたい。 c 一学期にも授業公開は行われてきているが、二学期にも公開授業を、さらに校内で授業公開研修を行ってみたい。 d 教科ごとに課題を出すなど工夫をしたり、また考査ルーティーンでの面談でHR担当がチェックをしている。家庭学習を安定して行っている生徒と、全く行わない生徒の個人差が大きい。
3. 自分を理解し愛するとともに、自然及び他人に対する深い理解と愛情とを養う	1-2 考査ルーティーンの定着を通して、学習習慣の確立と学習方法を習熟させる。	a 目標設定→計画立案→やり直し→反省のサイクルを習慣化させ、特に考査前の学習時間を保障する。 b 質問タイムを充実させ、学習室の有効活用を図り、考査前学習週間の学習環境を整える。	a 考査ルーティーンは定着しつつある。クラブの協力もあり、考査一週間前の学習活動は保障できた。 b クラブごとに考査前学習をする環境が整いつつある。クラブ未加入者についても学習室の利用状況が増加している。
	1-3 確認テストを充実させ、進路目標を実現するのに必要な基礎学力を身につけさせる。	a 事前の課題学習も含めて、確認テストを充実させる。 b 校外模試における学習到達度の向上を図る。	a 事前課題も含めて、確認テストは定着してきている。 b 各学年で生徒の実態を把握しながら対応している。
4. 勤労の価値を自覚し、積極的に活動する人間育成に努める	1-4 ハイレベル講座を充実させ、センター試験を利用して希望進路を実現できる学力を養成する。	a 年間の実施回数を適正化し、生徒の進路意識を高める。 b 講演会や補習を充実させ、意欲ある生徒集団をサポートする。	a ハイレベル講座での生徒意識の高まりはこれからの取組みにかかっている。 b 学年ごとに実施中である。2学年は学習合宿を実施、3年は1学期に講演会、2学期に補習を実施
	2-1 生徒の規範意識を高める。	a 生徒の人権意識を高め、モラルを向上させる。 b 交通安全への意識や交通マナーを向上させる。	昨年度に比べ、盗難被害は大幅に減少した。職員による巡視や啓発に加え、生徒の防犯意識にも変化がみられたと考えられる。反面、移動教室等に貴重品を置き忘れ、それが盗難に遭う事案が、新たな課題となっている。
5. 健康な身体と明朗で寛容な態度を養い、何事にも全力を尽くせる人間形成に努める	2-2 身だしなみの改善を図る。	a 統一的な身だしなみ検査の定着を図り、生徒の意識を向上させる。	始業式、定期考査の際、係が複数で巡視・点検する統一的な指導を実施してきた。生徒の目に見える形での検査により、頭髪の状態には改善がみられた。始業式・終業式等でのジャージ禁止を打ち出したが、徹底には課題を残した。
	2-3 毎日の清掃を徹底させ、環境・衛生面の向上に努める。	a 職員・生徒が協力して、清掃の徹底を図り、美化に努める。 b 特に、トイレ・昇降口・階段・廊下等を重視する。	美化委員会を中心としたワックスがけや巡視、校外清掃も2回実施できた。このような取り組みにもかかわらず、校舎の隅々までなかなかきれいにならない実態がある。
3-1 クラブ加入を積極的に勧め、活動の一層の充実を図る。	3-1 新入生のクラブ加入率8割を目標とし、各クラブ活動の充実と、それによる学校の活性化を図る。	a 新入生のクラブ加入率8割を目標とし、各クラブ活動の充実と、それによる学校の活性化を図る。	a 新入生のクラブ加入率81.2%、全校でも79.7%で、約8割加入を達成。運動系クラブの県大会以上の出場率6割以上。クラブ活動によって、学校が活気づいている。
	3-2 校外清掃等地域への奉仕活動を通し、生徒の自主的精神を育てる。	a エコ活動、ボランティア活動、校外清掃等、クラスへの呼びかけも行い、一般生徒も巻き込んだ活動に発展させる。 b 「地域住民生徒懇談会」を充実させ、生徒の自主的な問題解決能力を高める。	a 東高祭時の「クラス対抗エコキャップ大会」、「第1回校外清掃」は、クラスへの呼びかけをして行えた。 b 「住民・生徒懇談会」では、高橋町まで地域を広げて、生徒中心に活発な意見交換をした。
4-1 PTA活動を活性化させる。	4-1 PTA活動を活発化させる。	a 学級PTAを実施し、情報交換の場として活用する。 b 学校情報の確実な伝達に努め、保護者との意思疎通を図り、連携を深める。	a PTA総会当日に学級PTAの時間を設定した。1時間程度の枠であったが情報交換の場として有効であった。全体会は欠席しても学年・学級PTAには出席した保護者も結構いた。 b 役員会(三役会、評議員)を通じて、情報伝達や意思疎通に努めた。全体として大変協力的且つ主体的に関わっていただいている。
	4-2 文教地区を利用した小中高連携を図り、教職員及び生徒間の交流を深める。	a 近隣校との交流を拡大する。 b 「エコ活動」を通じて、小・中の児童・生徒会と連携し、生徒間の交流を深める。	a 「生徒自ら行う学習環境整美事業」サツキの植え替えにおいて、須坂園芸高校の協力を受けた。 b これから、「ABNエコキャップキャンペーン」へ、常磐中学校、須坂小学校に呼びかけて、共同で参加する。
4-3 「日滝の杜だより」の発行を継続するとともに、ホームページの一層の充実を図る。	a 「日滝の杜だより」の定期発行と内容の充実を図る。 b ホームページの更新頻度を高め、発信する情報の質をともに充実させる。	a 「日滝の杜だより」は例年並みに発行中。配布については、中学校が中心のため地域等での認知度は低い。 b ホームページについては、おおよそ週1ペースで更新中。内容については写真等を充実させ、幅広い年齢の閲覧者に見やすいホームページを目指している。	